

○高齢者で予防接種をご希望の人へ（接種前に必ずお読みください）

インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症予防接種説明書

1. 感染した時の症状について

・インフルエンザ

インフルエンザは「インフルエンザウイルス」に感染して起こる病気です。38℃以上の発熱、頭痛や関節・筋肉痛など全身の症状が急に現れ、高齢者や種々の慢性疾患を持つ人は肺炎を伴うなど重症化することがあります。

・新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症は「新型コロナウイルス」に感染して起こる病気です。呼吸器感染症なので、症状は、発熱、咽頭痛、咳などが中心となります。高齢者や基礎疾患を持つ人は重症化のリスクがあるとされています。

2. インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症予防接種について

ワクチン接種を受けた人は、死亡や入院など重症化の予防が期待できるとされています。接種して免疫がつくまでには1～2週間程度かかります。

・インフルエンザワクチン

現行ワクチンの安全性はきわめて高いと評価されています。インフルエンザワクチンは、ウイルスの活性を失わせて、免疫をつくるのに必要な成分を取り出し、病原性をなくした「不活化ワクチン」です。

・新型コロナワクチン

新型コロナワクチンについては、有効性や安全性が確認された上で薬事承認されており、さらに、国内外で実施された研究などにより、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院や死亡等の重症化等を予防する重症化予防効果が認められたと報告されています。

ワクチンには、「不活化ワクチン」、「mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチン」などの種類があります。新型コロナワクチンは筋肉内に注射することから、抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある人は、接種後の出血に注意が必要とされています。

3. 予防接種の副反応

いずれのワクチンでも比較的多く見られる副反応は、痛み、疲労、頭痛、寒気、発熱等です。これらの症状はたいてい数日以内に軽快することが分かっています。

まれですが、アナフィラキシーショックなど重い副反応の報告があります。気になる症状がある場合は医師に相談してください。

裏面に続く

4. 予防接種を受ける前の一般的注意

- (1) インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の予防接種について、この説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師に相談してください。
- (2) 予診票は、接種する医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受けるご本人が責任をもって記入し、正しい情報を医師に伝えてください。
- (3) 法律に基づくインフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の予防接種はあくまでも、ご本人の意思に基づいて接種を受けるものです。不明な点は医師から説明を聞き、十分にご理解いただいた上で接種を受けてください。

5. 予防接種を受けた後の一般的注意

- (1) 予防接種を受けた後、30分間は急な副反応が起こることがあります。医師や医療機関とすぐ連絡を取れるようにしておきましょう。
- (2) ワクチンの副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- (3) 入浴は差し支えありません。注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- (4) 接種当日はいつもどおりの生活をしましょう。ただし、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- (5) 予防接種を受けた部位が赤く腫れて痛んだり、軽い発熱などが起きることがあります。しかし、高熱、おう吐、けいれん、運動障害、その他の異常な症状があるときは、すみやかに、医師の診察を受けてください。

6. 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種による副反応のために、医療機関で治療が必要な場合や生活が不自由になった場合（健康被害）は、予防接種法に定められた救済制度（健康被害救済制度）があります。

なお、救済の適用を受けるにあたっては、健康被害が、本当に予防接種によるものなのか因果関係（接種前後の他の感染症や要因等）を調査したのち、予防接種によるものと認定される必要があります。

*** 給付申請の必要が生じた場合は、感染症・医務薬務課までお問い合わせください。**

〈お問い合わせ先〉

岐阜市保健所 感染症・医務薬務課

電話 058-252-7187

FAX 058-252-1280